

経済成長の機運が高まっていた昭和30年代、新潟市は二つの災害に見舞われた。市街地を業火が包んだ1955年の新潟大火と、64年の新潟地震。当時「戸川左官工業」だったいりやまと(新潟市中央区)は、建物の修復や資材提供を

## にいがたの老舗 100年の系譜

通じて街の復興に尽力した。

街には鉄筋コンクリート造りの高層ビルが次々に建てられた。洋風建築の広がりや伝統的な左官作業の需要が減る一方で、同社は技術を生かした内外壁の仕上げなどに腕を振るった。

### 塗りを極める いりやまと (新潟市中央区) ②



駐車場スロープの工事。コンクリート強度を高める新工法を導入した。2008年10月、新潟市中央区

このころから、同社の仕街・古町通7にあった映画館の幅は大きく広がる。き館「新潟大映」の建設と大っかきは、大手セネコン竹火による修復で、同社の下中工務店(東京)との結び請けとなり、仕事ぶりを認めた。新潟市の繁華められた。

# 大事業参画 実力磨く

サンスター経済

## 大手特約で売上高急増



中央区

「県内外で竹中の現場をど時代の象徴といえる建物について回り、貴重な経験を 群にも携わった。積んだ。産業が興隆した時 「左官は裏方で、建物の代で、大事業はいくつもあ 出来栄を直接褒められるった」と戸川正昭社長(65) ことはない。でも、職人の手でなければできない仕事は振り返る。

上越市の旧・三菱化成直 江津工場や東京電力柏崎刈 羽原発で、巨大機器を設置 時流に乗って好調が続い する床工事などで基幹産業 た戸川左官工業は72年、創 を下支えた。リゾート開 業100年を記念して社名 発が本格化すると、苗場プ を変更する。屋号の大和屋 リンスホテル(湯沢町) なを、山が入り組んだ図 柄の下に「ト」 と書いた商標 伴い、土木技術の習得にも を、そのまま説 励んだ。

んで「いりやま 割れたり欠けたりしたコ 節目の年、資 った材料などで補修する 材販売でも新た 「リフリート工法」などを、 いち早く導入。首都高快速 路や県内の橋、梁修理など に応用した。

新たな技術や工事機器 に対する旺盛な好奇心は、 試験し新潟市中 さらなる業容拡大のもとと った。

「大手の特約店というの は、いわば看板。信用力 が段違いだから、ほかの資 材も売れる。営業窓口がぐ っと広がった」と戸川社長 の実妹、戸川純子常務(61)。 同社の売上高は77年から 3年で約1.7倍に伸び った。資材商社としての基盤 が固まり、社内は活気つい た。

国内大手の小野田セメン ト(現・太平洋セメント) の特約販売店になったの だ。

な発展の種が芽吹いた。